

## 金壽卿著作目録

年	月	範疇	執筆 形態	文献	備考
1937	03	活動 報告	単著	「英語研究会」, 『學友會報 昭和十一年度』 京城帝國大學豫科學友會文藝部	
1945	03	論文	単著	「老乞大」諸板の再吟味：訂本「老乞大諺解」の發見を機として, 『「老乞大」諸板の再吟味』 京城帝國大學法文學部, 奎章閣叢書 第九 老乞大諺解 別冊附録, 油印本	「山川哲」名で本文を執筆。序文（「小引」）は末松保和が執筆。
1946	05	翻訳 書	単著	모리스・쿠-랑 『朝鮮文化史序説』, 서울：凡章閣 (モーリス・クーラン『朝鮮文化史序説』, ソウル：凡章閣)	原著 Maurice Courant, <i>Bibliographie coréenne</i> , Paris: E. Leroux, 1894-1896.
1947	05	論文	単著	“「龍飛御天歌」挿入子音考”, 『震檀學報』 15 (「龍飛御天歌」挿入子音考), 『震檀學報』 15)	原稿は1945年中に提出。
1947	06	論文	単著	“朝鮮語學會『한글 맞춤법 통일안』中에서 改正할 몇가지 其一 漢字音表記에 있어서 頭音 ㄴ 及 ㄹ 에 對하여”, 『勞働新聞』 1947.6.6, 6.7, 6.8, 6.10 (「朝鮮語学会『ハングル綴字法統一案』中において改正すべきいくつか 其一 漢字音表記における頭音 n および r について」, 『勞働新聞』 1947.6.6, 6.7, 6.8, 6.10)	『関西大学人権問題研究室紀要』 41 (2000) に熊谷明泰による日本語訳と解説あり。
1947	10	論文	単著	“訓民正音創制의 前段階에 對하여”, 『民主朝鮮』 1947년 10월 30-31일 (「訓民正音創制の前段階について」, 『民主朝鮮』 1947年10月30-31日)	

年	月	範疇	執筆形態	文献	備考
[1948]		単行本	単著	『조선어 문법 (대학용)』, [김일성 종합대학] (『朝鮮語文法 (大学用)』, [金日成綜合大學])	遺族情報。《金日成綜合大學10年史》(1956)によれば、この頃に《朝鮮語文法研究》を完成したという。
1949	01	論文	単著	“訓民正音成立史考”, 金日成綜合大學歴史文學部『歴史・文學研究論文集』金日成綜合大學科學學術研究論叢・第一, 金日成綜合大學編輯部 (「訓民正音成立史考」, 金日成綜合大學歴史文學部『歴史・文學研究論文集』金日成綜合大學科學學術研究論叢・第一, 金日成綜合大學編輯部)	論文末尾に「1947年11月4日」という日付が記されている。
1949	04	翻訳論文	単著	에스·데·까즈넬손, “소베트 一般言語學 三十年”, 『조선어연구』 창간호 (S. D. カツネルソン, 「ソビエト一般言語學30年」, 『朝鮮語研究』創刊号)	『ソ連科学アカデミー文學言語學分科機関誌』1947年第5号より。
1949	04	翻訳論文	単著	“소베트 言語學的 當面課題”, 『조선어연구』 창간호 (「ソビエト言語學的の當面問題」, 『朝鮮語研究』創刊号)	『ソ連科学アカデミー文學言語學分科機関誌』1947年第5号より。
1949	05	論文	単著	“龍飛御天歌에 보이는 挿入字母의 本質: 特히 問題의 現實性에 비추어”, 『조선어연구』 1-2 (「龍飛御天歌にみえる挿入字母の本質: 特に問題の現實性にてらして」, 『朝鮮語研究』1-2)	
1949	05	翻訳論文	単著	이·이·메쉬차니노브, “新言語理論發展의 現段階”, 『조선어연구』 1-2 (I. I. 메シチャニーノフ「新言語理論發展의現段階」, 『朝鮮語研究』1-2)	レニングラード国立大學小冊子、メシチャニーノフ著『新言語理論發展의現段階』(1948)より。

年	月	範疇	執筆 形態	文献	備考
1949	06	論文	単著	“조선어 학자로서의 김두봉 선생 : 선생의 탄생 60주년을 맞이하여”, 『조선어연구』 1-3 (「朝鮮語学者としての金料奉先生 : 先生の誕生60周年をむかえて」, 『朝鮮語研究』 1-3)	
1949	06	翻訳 論文	単著	아. 까. 보로브꼬브, “三十年 間の 쏘련 東方學”, 『조선어연구』 1-3 (A. K. 보로프코프 「30年間のソ連東方学」, 『朝鮮語研究』 1-3)	『ソ連科学アカデミー文学言語学学科機関誌』第6巻第5分冊, 1947年より。
1949	07	翻訳 書	単著	아. 아. 레폴마트쓰끼 『(대학용) 언어학』, 평양 : 교육성 (A. A. 레폴마트츠키 『(大学用) 言語学』, 平壤 : 教育省)	原書 : A. A. Реформатский, 《Введение в языкознание》 1947。
1949	09	翻訳 論文	単著	И. И. 쭈게르만, “Н. Я. 마르와 쏘베트 언어학”, 『조선어연구』 1-6 (I. I. ツーケルマン 「N.Ya. 마르와 소비エト言語学」, 『朝鮮語研究』 1-6)	レニングラード国立大学小冊子、メシチャニーノフ著 『新言語理論発展の現段階』(1948) より。
1949	12	単行 本	共著	조선 어문 연구회 『조선어 문법』, 평양 : 조선어문연구회 (朝鮮語文研究会 『朝鮮語文法』, 平壤 : 朝鮮語文研究会)	金壽卿が「主動」となって「担当執筆」した(《主体の朝鮮語研究50年史》 365, 403頁)。
1950	02	翻訳 論文	単著	H. C. 체모다노프, “구조주의와 쏘베트 언어학”, 『조선어연구』 2-1 (N. S. চেমোদাৰ্নোৱ 「構造主義とソビエト言語学」, 『朝鮮語研究』 2-1)	『ソ連科学アカデミー文学言語学学科機関誌』第6巻第2分冊, 1947年より。

年	月	範疇	執筆 形態	文献	備考
1952	06	論文	單著	“언어학의 문제들에 관한 이. 웨. 쓰딸린의 로작과 조선 언어학의 과업”, 『언어학에 관한 이. 웨. 쓰딸린의 로작 발표 二주년 기념 문헌집』, 조쏘 문화 협회 (「言語学の諸問題に関する I. V. 스타ー린의 勞作と朝鮮言語学の課業」, 『言語学の諸問題に関する I. V. 스타ー린의 勞作發表2周年記念文献集』, 朝ソ文化協會)	
1952	06	翻譯 論文	單著	웨. 웨. 위노그라도브, “이. 웨. 쓰딸린의 로작 『맑스주의와 언어학의 제문제』와 쏘베트 언어 과학의 발전”, 『언어학에 관한 이. 웨. 쓰딸린의 로작 발표 二주년 기념 문헌집』, 조쏘 문화 협회 (V. V. ヴィノグラードフ「I. V. 스타ー린의 勞作『マルクス主義と言語学の諸問題』とソビエト言語科学の發展」, 『言語学の諸問題に関する I. V. 스타ー린의 勞作發表2周年記念文献集』, 朝ソ文化協會)	
1952	07	翻譯 書	單著	웨. 웨. 위노그라도브 『언어학의 문제들에 관한 이. 웨. 쓰딸린의 로작에 관하여』 / 웨. 웨. 노위꼬브 『언어학에 관한 쓰딸린 동지의 로작들과 쏘베트 문예학의 제 문제』, 평양 : 교육성 교육 도서 출판관리국 (V. V. ヴィノグラードフ『言語学の諸問題に関する I. V. 스타ー린의 勞作に関して』 / V. V. 노위코프『言語学に関する 스타ー린同志의 諸勞作とソビエト文芸学の諸問題』, 平壤 : 教育省教育図書出版管理局)	原著 V. B. Виноградов, 《О труде И. В. Сталина по вопросам языкознания》と もう1冊の本の翻訳を合本したもの。

年	月	範疇	執筆 形態	文献	備考
1953	09	論文	單著	“현대 조선어 연구 서설”, 『조선민주주의인민공화국 과학원 학보』 1953년 No.1 (「現代朝鮮語研究序說」, 『朝鮮民主主義人民共和國科學院學報』 1953-1)	
1953	12	論文	單著	“언어학의 문제들에 관한 이. 웨. 쓰딸린의 로작에 비추어 본 조선어의 기본 어휘와 어휘 구성에 관하여”, 『조선민주주의인민공화국 과학원 학보』 1953년 No.2 (「言語学の諸問題に関する I. V. 스타ー린の劣作にてらしてみた朝鮮語の基本語彙と語彙構成に関して」, 『朝鮮民主主義人民共和國科學院學報』 1953-2)	
1954	06	論文	單著	“주시경선생의 생애와 학설: 선생의 서거 40주년에 제하여”, 『조선민주주의인민공화국 과학원 학보』 1954년 No.5 (「周時經先生の生涯と學說: 先生の逝去40周年に際して」, 『朝鮮民主主義人民共和國科學院學報』 1954-5)	
1954	08	翻譯 論文	單著	▶. 에프. 유진, “언어학의 문제들에 관한 이. 웨. 쓰딸린의 로작이 사회 과학의 발전에 대하여 가지는 의의”, 『소웨트 언어학의 제문제: 번역 논문집』 조선 민주주의 인민 공화국 과학원 (P. F. 유진 「言語学の諸問題に関する I. V. 스타ー린の劣作が社会科学の發展に対してもつ意義」, 『ソビエト言語学の諸問題: 翻譯論文集』 朝鮮民主主義人民共和國科學院)	П. Ф. Юдин, “Значение трудов И. В. Сталина по вопросам языкознания для развития общественных наук” (ソ連科學アカデミー編 『I. V. 스타ー린의天才的著述 「マルクス主義と言語学の諸問題」 發刊1周年記念ソ連科學アカデミー社会科学分科合同會議資料集』 1951年版)。

年	月	範疇	執筆 形態	文献	備考
1954	08	翻譯 論文	單著	아. 이. 스미르니쯔끼, “언어학에 있어서의 비교-역사적 방법에 관한 문제에 대하여”, 『쏘웨트 언어학의 제문제: 번역 논문집』 조선 민주주의 인민 공화국 과학원 (A. I. 스미르니쯔キー 「言語学における比較歴史的方法に関する問題について」, 『ソビエト言語学の諸問題: 翻訳論文集』朝鮮民主主義人民共和国科学院)	A. И. Смирницкий, “К вопросу о сравнительно-историческом методе в языкознании” (『言語学の諸問題』 1952年第6号)。
1954	08	翻譯 論文	單著	엔. 이. 콘라드, “언어학에 관한 이. 웨. 쓰딸핀의 로작에 비추어 본 중국과 일본에 있어서의 민족어에 관하여”, 『쏘웨트 언어학의 제문제: 번역 논문집』 조선 민주주의 인민 공화국 과학원 (N. I. 콘라드 「言語学に関する I. V. 스타ー린의 勞作にてらしてみた中国と日本における民族語に関して」, 『ソビエト言語学の諸問題: 翻訳論文集』朝鮮民主主義人民共和国科学院)	H. И. Конрад, “О национальном языке в Китае и Японии в свете трудов И. В. Сталина по языкознанию” (『ソ連科学アカデミー『東方学研究所学報』 第4卷, 1952年)。
1954	[9]	單行 本	共著	조선민주주의인민공화국 과학원 조선어 및 조선문학 연구소 『조선어 철자법』, 평양: 조선민주주의인민공화국 과학원 편집출판위원회 (朝鮮民主主義人民共和国科学院朝鮮語及朝鮮文學研究所 『朝鮮語綴字法』, 平壤: 朝鮮民主主義人民共和国科学院編集出版委員會)	金壽卿は草案の作成を担当。
1954	10	單行 本	單著	『조선어문법 (문장론) 초급중학교 제3학년용』, 평양: 교육 도서출판사 (『朝鮮語文法 (文章論) 初級中学校第3学年用』, 平壤: 教育圖書出版社)	

年	月	範疇	執筆形態	文献	備考
1954	11	単行本	単著	『조선어문법 (어음론 형태론) 초급 중학교 제1, 2학년용』, 평양: 교육 도서출판사  (『朝鮮語文法 (語音論, 形態論) 初級中學校第1, 2學年用』, 平壤: 教育圖書出版社)	1956-57年に友友書房から影印出版。
1955	05	単行本	単著	『조선어문법』, 연길: 연변교육출판사  (『朝鮮語文法』, 延吉: 延辺教育出版社)	平壤で出版された《朝鮮語文法》初級中學校1, 2學年用と3學年用を合本し、1954年の《朝鮮語綴字法》にもとづいて一部修正して組み直したものの。
1955		翻訳監修	共著	김일성종합대학 조선어학 및 일반언어학강좌 역 『이·웨·쓰말린의 로마자에 비추어 본 언어학의 제 문제 (각 대학 어문학부용)』, 평양: 교육 도서 출판사  (金日成綜合大學朝鮮語學及一般言語學講座訳, 『I. V. 스타ー린의 勞作にてらしてみた言語學の諸問題 (各大學語文學部用)』, 平壤: 教育圖書出版社)	原書: 《Вопросы языкознания в свете трудов И. В. Сталина》(1952)。金壽卿は、本全体の「審査」(監修)を担当。
1956	02	論文	単著	“조선어 형태론의 몇 가지 기본적인 문제에 관하여 (상)”, 『조선어문』 1956. No.1  (『朝鮮語形態論のいくつかの基本的問題に関して (上)』, 『朝鮮語文』 1956. No.1)	
1956	02	翻訳論文	単著	오, 빼, 빼뜨로와, “특별기고 로씨야와 소련의 조선어 연구사 개요: 형제적 인민들의 조선어연구”, 『조선어문』 1956. No.1  (O. P. 베트로워 「特別寄稿 ロシアとソ連の朝鮮語研究史概要: 兄弟的諸人民の朝鮮語研究」, 『朝鮮語文』 1956. No.1)	原著: O. П. Петрова, “Очерк истории изучения Корейского языка в росии и СССР”

年	月	範疇	執筆 形態	文献	備考
1956	04	論文	單著	“조선어 형태론의 몇 가지 기본적인 문제 에 관하여 (하)”, 『조선어문』 1956. No.2 (「朝鮮語形態論のいくつかの基本的問題 に関して (下)」, 『朝鮮語文』1956. No.2)	
1956	04	論說	單著	“당의 고무하에 달성된 과학 연구 사 업의 성과”, 『대학신문』1956년 4월 26일 (속간 제3호) (「党の鼓舞下に達成された科学研究事 業の成果」, 『大学新聞』1956年4月26日, 続刊3号)	
1957	07	論文	單著	“출판물의 언어를 더욱 인민대중에게 접근시키자”, 『근로자』1957년 7호 (「出版物の言語をいっそう人民大衆に 接近させよう」, 『勤勞者』1956年7号)	
1958	01	論文	單著	“공화국 북반부에서는 어찌하여 한 자를 폐지할 수 있었는가?”, 『말과 글』 창간호 (1958년 1호) (「共和国北半部ではいかにして漢字を 廃止することができたのか」, 『言葉と 文』創刊号=1958年1号)	
1960	07	單行 本	共著	과학원언어문학연구소 『조선어문법 1 어음론 형태론』, 평양: 과학원출 판사 (科学院言語文学研究所 『朝鮮語文法 1 語音論・形態論』, 平壤: 科学院出版社)	金壽卿・李權榮が担当執筆 (《主体の朝鮮語研究 50年》1996年, 369頁)。
1961	03	單行 本	共著	『현대조선어 1』, 평양: 고등교육도 서관사 (『現代朝鮮語 1』, 平壤: 高等教育図書 出版社)	執筆者: 金壽卿、金金石、 金榮晃

年	月	範疇	執筆 形態	文献	備考
1961	08	論文	單著	“인민적 문풍 확립을 위한 당의 방침을 더욱 철저히 관철하기 위하여”, 『조선어학』 1961년3호 (「人民的文風確立のための党の方針をいっそう徹底して貫徹するために」, 『朝鮮語学』 1961-3)	
1961	11	單行本	共著	『현대조선어 2』, 평양: 고등교육도서출판사 (『現代朝鮮語 2』, 平壤: 高等教育図書出版社)	執筆者: 金壽卿、金百鍊
1962	08	單行本	共著	『현대조선어 3』, 평양: 고등교육도서출판사 (『現代朝鮮語 3』, 平壤: 高等教育図書出版社)	執筆者: 金壽卿、宋瑞龍
1963	04	論文	單著	“《조선말 사전》(1-6 권”, 『조선어학』 1963년2호 ([『朝鮮語辞典』 1-6卷], 『朝鮮語学』 1963-2)	
1963	08	論文	單著	“문풍에 대한 리해를 더욱 심화하기 위하여”, 『조선어학』 1963년3호 (「文風に対する理解をいっそう深化するために」, 『朝鮮語学』 1963-3)	
1963		論文	單著	“우리 나라에서의 문풍 운동의 발전”, 공화국창건15주년학술대회 (「わが国における文風運動の発展」, 共和国創建15周年学術大会)	李得春他《光復後朝鮮語論著目錄指針書》(2001)で言及。
1964	03	論文	單著	“작가의 개성과 언어”, 『문학연구』 1964-3 (「作家の個性と言語」, 『文学研究』 1964-3)	
1964	09	論文	單著	“최근의 정론들에 나타나고 있는 회화체의 요소”, 『조선어학』 1964년5호 (「最近の政論にあらわれている会話体の要素」, 『朝鮮語学』 1964-5)	

年	月	範疇	執筆 形態	文獻	備考
1964	11	單行 本	共著	『조선어문법』, 평양: 고등교육도서 출판사 (『朝鮮語文法』, 平壤: 高等教育圖書出 版社)	品詞論: 金壽卿、形態 論: 廉宗訥·金百鍊、文 章論: 宋瑞龍·金榮晃
1964		單行 本	單著	『조선어문체론』, 평양: 고등교육도 서관사 (『朝鮮語文体論』, 平壤: 高等教育圖書 出版社)	
1964		單行 本	共著	『조선어 어휘론 및 어음론』, 평양: 고등교육도서출판사 (『朝鮮語語彙論及語音論』, 平壤: 高等 教育圖書出版社)	執筆者: 金壽卿、金金石、 金榮晃
1965	11	論文	單著	“새로운 조선말 사전 편찬을 위한 몇 가지 문제”, 『조선어학』 1965년4호 (「新たな朝鮮語辞典編纂のためのいく つかの問題」, 『朝鮮語学』 1965-4)	
1967	02	論文	單著	“우리 말 학술용어를 주체적으로 다 듬기 위한 몇가지 문제”, 『어문연구』 1967년1호 (「朝鮮語學術用語를主体的に整えるた めのいくつかの問題」, 『語文研究』 1967-1)	
1989	01	学会 報告	單著	“14-19세기 조선에서의 동아시아언 어연구의 몇가지 특성에 대하여”, 『조선관계전문학자들의 국제과학토 론회 토론집 (언어학 분과)』 사회 과학출판사  (「14-19世紀朝鮮における東アジア言語 研究のいくつかの特性について」, 『朝 鮮関係専門学者らの国際科学討論会討 論集 (言語学学科)』社会科学出版社)	

年	月	範疇	執筆形態	文献	備考
1989	05	単行本	単著	『세나라 시기 언어력사에 관한 남조선 학계의 견해에 대한 비판적고찰』, 평양: 평양출판사 (『三国時期言語歴史に関する南朝鮮学界の見解に対する批判的考察』, 平壤: 平壤出版社)	ソウルで『高句麗・百濟・新羅言語研究』(韓国文化社, 1995年)とのタイトルで再版。
1989	12	学会報告	単著	“《로길대》, 《박통사》 계열의 옛 중국 어학서들이 가지는 언어사적의의”, 중국 북경대학 조선문화연구소, 일본 오사카 경제법과대학 아세아 연구소 편집 『제2차 조선학 국제학술 토론회 논문집』 북경: 민족출판사 (『『老乞大』『朴通事』系列の旧中国語学習書をもつ言語史的意義』, 北京大学朝鮮文化研究所・大阪経済法科大学アジア研究所編集 『第2次朝鮮学国際學術討論會論文集』北京: 民族出版社)	1988年8月24日～28日に北京大学でおこなわれた討論会で発表された140余の報告のうち71本を収録。
1990	05	学会報告	単著	“《번역, 로길대, 박통사, 범례》 및 《로박집람》에 반영된 16세기 초 조선에서의 대조언어학적연구의 주요 특징에 대하여”, 『제3차조선학국제학술토론회 논문요지: 1990년 8월 2일 -8월 5일 일본 오사카에서 개최』 (『『翻訳老乞大朴通事凡例』および『老朴集覽』に反映された16世紀初朝鮮における対照言語学的研究の主要特徴について』, 『第3朝鮮学国際學術討論會論文要旨: 1990年8月2日 -8月5日日本大阪で開催』)	主催: 大阪経済法科大学アジア研究所、北京大学朝鮮文化研究所

年	月	範疇	執筆 形態	文献	備考
1994	10	論文	单著	“《번역 로걸대 박통사 범례》 및 《로박집람》의 서지학적문제점과 어학사적의의에 대하여”, 『언어학론문집』 (11), 과학백과사전종합출판사 (『『翻訳老乞大朴通事凡例』および『老朴集覽』の書誌学的問題点と語学史的意義について』, 『言語学論文集』 11, 科学百科事典綜合出版社)	
1994	11	手記	单著	『배낭속의 수첩을 펼치며』 [오직 한 마음 당을 따라 북남 7천리 : 한 지식인의 조국해방전쟁참전수기 (1950.8.9~1951.3.3)] (『背囊のなかの手帖をひらいて』 [ただ一心党に従って北南7千里 : 一知識人の祖国解放戦争参戦手記 (1950.8.9~1951.3.3)])	遺族保有の未刊行原稿。 1993年8月15日執筆開始、 1994年11月20日脱稿。タイトルが2つあり、元のタイトルと思われる方を『』で、後から付けたと思われる方を□で表示した。